

■菅原孝標女 作家、歌人。孤独な晩年に、人生回想の「更級日記」を著し、「夜半の寝覚」ほかの物語作者とも伝えられる。

すがわらのたかすえのむすめ

源氏物語始・1008 =

生。父孝標は菅原道真の5世孫。母は歌人陸奥守藤原倫寧の娘。祖父資忠は大学頭文章博士、兄長能は歌人。また継母上総大輔(紫式部の娘大式三位の姪)も歌人である。_「蜻蛉日記」の作者道綱母の異母妹。

・ ・ ・ ・ ・ 1011 = 3歳：のちに大学頭文章博士となる弟定義誕生か。

幼時を京で過して、文学に親しみ、

・ ・ ・ ・ ・ 1015 = 7歳：この頃、父が上総大輔と再婚。

道長太政大臣1017 = 9歳：上総介に任命された父に従い、一家で国府(千葉県市原市)に下る。

三后鼎立・1018 = 10歳：

この間、物語への渴望。

・ ・ ・ ・ ・ 1020 = 12歳：父の任期が終り、3か月旅して、帰京。三条宮の西に住む。まもなく継母上総大輔は離婚して家を去り、

・ ・ ・ ・ ・ 1021 = 13歳：疫病流行で、乳母で手習いの師でもあった行成女らと死別。太秦広隆寺に参籠。「源氏物語」を入手、

・ ・ ・ ・ ・ 1022 = 14歳：迷い込んだ唐猫を、行成女の生まれ変わりと大事に育て始める。「長恨歌物語」を入手、

・ ・ ・ ・ ・ 1023 = 15歳：自宅が火災となり、猫も焼死してしまう。

・ ・ ・ ・ ・ 1024 = 16歳：姉が死去したため、遺児2人の母代りとなる。「かばねたづぬる宮」を入手、

・ ・ ・ ・ ・ 1025 = 17歳：一時東山に住む。「雲ににごる人」と歌の贈答。

・ ・ ・ ・ ・ 1026 = 18歳：東山に住む尼に歌を贈る。

藤原道長没・1027 = 19歳：継母に歌を贈る。

平忠常の乱始1028 = 20歳：

この間も、_物語を読み耽り、幻想の世界に住んでいたらしく、

平忠常の乱終1031 = 23歳：「源氏物語」の浮舟に憧れる。この年、継母が宮中へ再出仕。

・ ・ ・ ・ ・ 1032 = 24歳：父が常陸介に任命されて東国へ下るに当り、京に残り涙の別れ、太秦広隆寺に詣でて再会を祈り、うたた寝に見た夢の話などを日記に書きとめている。「子しのびの森」贈答歌。

僧徒狼藉始・1035 = 27歳：清水寺に参籠。初瀬に大鏡奉納。修学院の尼と歌の贈答。

・ ・ ・ ・ ・ 1036 = 28歳：父が常陸の任務から戻り、母が在家の尼になったことから、以後、主婦役。

・ ・ ・ ・ ・ 1039 = 31歳：後朱雀天皇の皇女祐子内親王家に初出仕したが、宮仕え生活になじまずときおり出仕する程度であった。

長久荘園整理1040 = 32歳：宮仕えを辞めて、但馬守橘橘為義の四男で従五位上信濃守橘俊通と結婚。長男仲俊ほか女子をもうけ、

・ ・ ・ ・ ・ 1041 = 33歳：下野の守となった夫が単身赴任、結婚に幻滅、祐子内親王家に再出仕。

・ ・ ・ ・ ・ 1042 = 34歳：お供で宮中に上る。様々な思いにふけるうち、源資通と出会い、他の女房3人と春秋の優劣を論じる。

・ ・ ・ ・ ・ 1043 = 35歳：内親王お供で参内。源資通と交渉あったらしいが、

・ ・ ・ ・ ・ 1044 = 36歳：退任し、源資通との仲も終焉。この前後に、父も死去したらしく、

寛徳荘園整理1045 = 37歳：石山に参籠して、年月過ぎたことに感慨。

・ ・ ・ ・ ・ 1046 = 38歳：初瀬参籠。

この間も、地道に家庭生活の安穩を願ってしばしば社寺に参詣したが、

前九年の役始1051 = 43歳：

末法思想始・1052 = 44歳：

鳳凰堂・1053 = 45歳：

天喜荘園整理1055 = 47歳：_病に罹って、沈みがちとなり、

・ ・ ・ ・ ・ 1057 = 49歳：信濃守に任じられた夫の下向に不吉を覚え、

・ ・ ・ ・ ・ 1058 = 50歳：_任地から一時帰京した夫が死去、以後、ますます孤独な晩年を送り、

・ ・ ・ ・ ・ 1060 = 52歳：*悲嘆にくれつつも、みずからの来し方を顧みるつもりで筆を起したのが「更級日記」で、12歳から51歳までの、夢と信仰との相克を哀切に語る回想記となっている。この年前後に成った「夜半の寝覚」「浜松中納言物語」ほかの物語の作者とも伝えられる。家集もあったらしいが、伝わっていない。「新古今集」以下に14首入集。また、散逸した「みづから悔ゆる」「朝倉」などの物語の作者とされている。

_没年不明。